

春まき小麦安定生産

は種精度を高め、茎数・穂数の安定化で安定生産

活動年次：令和3～4年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

1 課題設定の背景 *****

対象：石狩市美登位地区（7戸）

背景

- ・連作による土壌病害の発生。
- ・透・排水性の不良。
- ・土壌肥沃度が相違。
- ・低pH …etc

地域で安定多収が望まれていた。

課題

- ・輪作による土壌病害の抑制
- ・透・排水性の改善
- ・pHの適正化
- ・適期は種の適正化
は種時期
" 量
" 深度
- ・施肥改善
(幼形期追肥N4kg/10a)
- ・適期病害虫防除
- ・適期収穫

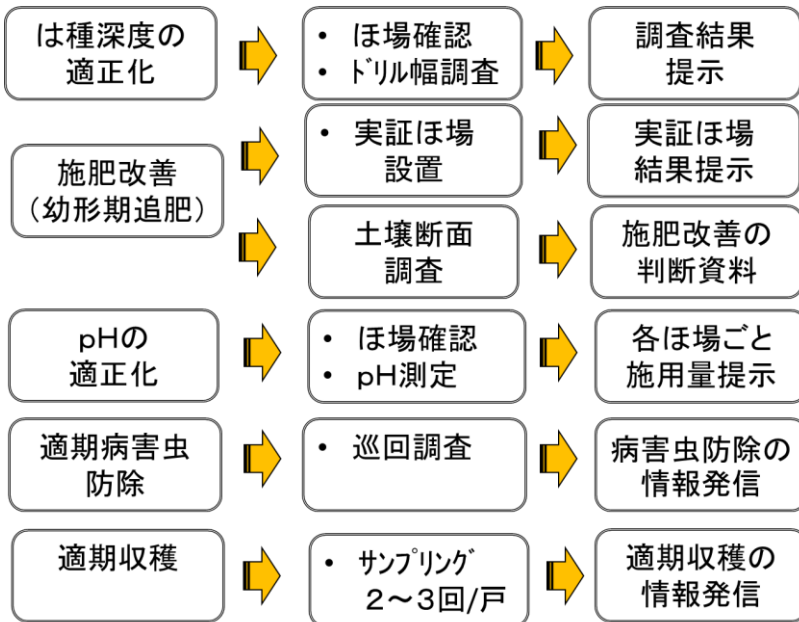
目標

安定多収による収益性の向上

2 活動の経過 *****

課題解決のため →全戸で1筆定点ほ場を設置

ほ場条件・耕種概要などを聞き取り、要因解析、実証、情報発信



スムーズな活動のために



栽培ほ場の見える化
↓
・時間の短縮
・情報共有

作付け予定地の耕地図を作成（4月）



ドリル幅で各列毎のは種深度を把握（5月）



中間報告、病害虫防除の情報発信（7月）



定点ほ場・実証ほ場で調査（8月）



活動結果の報告・検討会（1月）

3 活動の成果

は種深度の適正化

えっ!?
こんなに深いの?
A農家

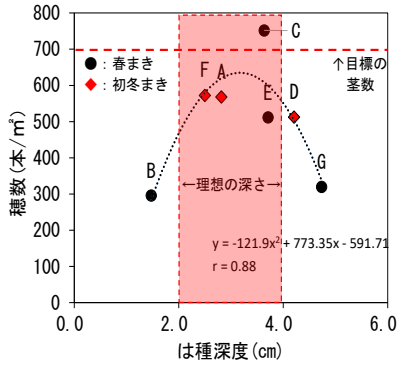


図1 は種深度と穂数

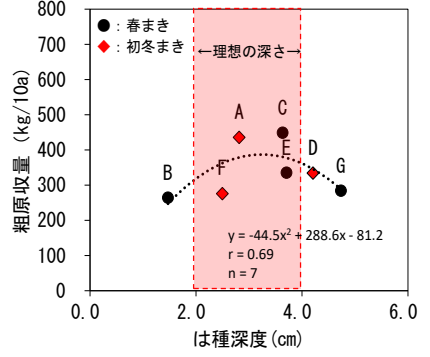


図2 は種深度と粗原収量

定点調査の結果を提示、特に深かった人を中心に助言。

全戸で秋まき小麦からは種深度に注意して、は種作業が行われた。



写真 は種深度が深い

施肥改善 (幼形期追肥)

倒伏が心配で、提案した幼穂形成期の窒素追肥に消極的であったが、1戸で実施した。

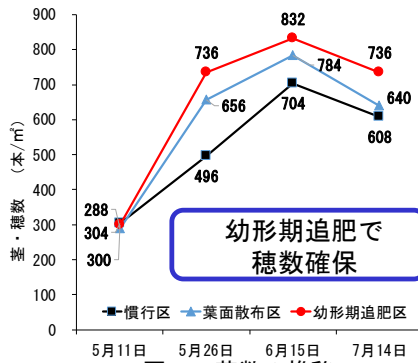


図3 茎数の推移

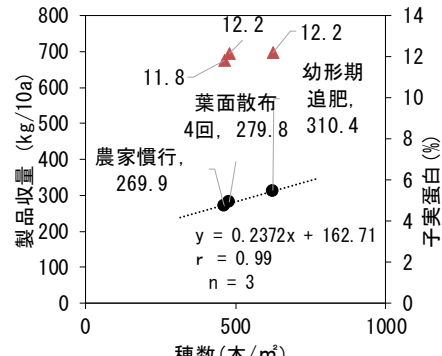


図4 穂数と製品収量

泥炭だから追肥すると倒伏するのでは・・・?!
C農家

では・・・春まきの春小麦で実際に試してみましよう!
普及員

今年乾燥したからでしょ。
C農家

では、次年度も試してみましよう。
普及員

pHの適正化

ほ場を聞き取り、麦類作付け予定の全ほ場で土壌分析を行い、pHを矯正する施用量を提案した。全戸でpHが矯正された。

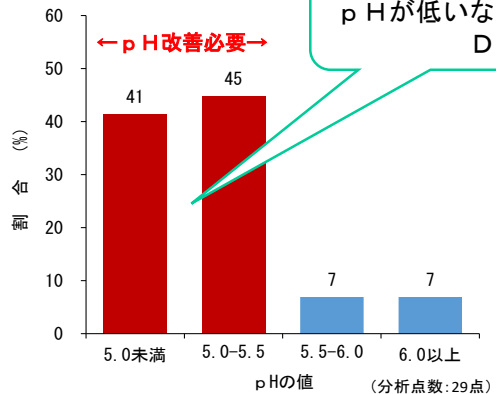


図5 麦類作付け予定地のpH分布

4 今後の活動

- ・耕地図を活用し農家各戸・普及センター職員相互の栽培状況等の情報共有を図る。
- ・定点ほ場、実証展示ほの調査結果を農家に現状を説明し、改善案を提示、来年度に改善結果を調査する。
- ・は種深度の適正化を図った後、施肥改善 (幼形期窒素追肥 4 kg/10a)の波及・定着に向け取り組む。